

鯉淵みらい通信

みらい基金プロジェクトに関するお知らせ

○農林水産業みらい基金プロジェクトってななに

農業と食と地域の活性化のために創意工夫にあふれた取り組みをしている団体がサポートを受けられる制度のことです。

鯉淵学園は沢山の応募の中、そのサポートを受けられる申請が通りました。よって今年1月から新規開発事業としてみらい基金プロジェクトを立ち上げました。

このプロジェクトを通してより鯉淵学園が活性化し、日本の農業と食を支える存在になればと思います。

どんな取り組みをしているの？

ざっ栗言うと…栗の生産から販売までのプロジェクト。

- ・ICTを取り入れた栗農園の管理
- ・栗の有効利用化(SDGsへの取り組み)
- ・ブランド豚の開発(マロンポークを作る)

どうして栗なの？

茨城県は栗の生産が日本一です。特にご近所の笠間市は栗の生産地として有名です。鯉淵学園の周りにも栗畑が沢山あるのはご存じでしょうか。

しかし栗農家の高齢化により、人手不足が深刻化しています。管理に悩む農家も少なくないのが現状です。こういった茨城の特産物を無くしたくない！という思いから、まずは栗農家を活性化させようと考えました。

内容

○ICTを取り入れた栗農園の管理

栗農園にセンサーやロボットを導入して管理をデジタル化します。デジタル化することで身体の負担を軽減したり、若い世代にもっと農業に興味を持ってもらえるのではないのでしょうか。

○栗の有効利用化

栗は収穫する時に傷や虫食いなどによって売り物にしない栗(くず栗)と栗を加工する時に出る皮が大量に捨てられています。それらを有効利用し豚のエサにします。

○ブランド豚の開発

美味しい笠間の栗を食べて育った豚(マロンポーク)をブランド化します。そのためにエサの配合量や豚の飼育方法を検証していきます。

栗の生産から販売までの道のりは
こちらのInstagramを見てね

